

刊夕日六十月一十

常磐毎日新聞

定額一ヶ月五拾五圓 郵費五圓
 廣告料一文字一圓 行金五拾圓
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

偶感録 [上]

異 野 學 人

暴力と無知

暴力と無知とは相伴ふものである。知明かなれば、其人間として爲すべきことに迷ふこともないから暴力などを振ふ筈はない。力自慢などをして徒らに力む者は、之より貴き知又は善の世界あることを知らぬ者である。知者より之を見れば寧ろ悲むべきものが多い。濱口首相を狙撃した者は右傾派の人と傳へられて居るが斯る暴舉に出づる以上は左傾も右傾もあつたものではない、左傾固より非難すべきことが多からうが、右傾も亦然りと云ふべきであらう、但し知者は其間に於て左傾右傾を超越して中正公平の道を取つて往く者である。

文を顧みざる武は危ぶなものである、武を振ふ目的は唯文に由つてのみ知るべきで、決して武によつて知るべきでない、正しい目的を知らないで徒らに暴力を振ふを武士道と心得て居る者があるやうであるが、其れは非常な間違である、武士道は武道とも云ひ、士道とも云ひ、或はものゝの道とも云ひ、必ず道と云

ふのであるが、教は矢張り道の教である、然るに道は道徳の道で我邦に於てはかんながらの道の特殊の方面に於ける應用と見るべきであらう、兎に角道の何たるかを辨へなければ武士道を知つたとは云へない、道に外れた武勇はいはゆる蠻男で、決して眞男ではない、蠻男と暴力とは蕃民のそれと同じく賤むべきものである。

世には實に種々雑多の人が入交つて利害得失を異にして居る、それで相互に猜疑する者、中傷する者、罵倒する者、排撃する者、構陷する者、賞讃する者、阿諛する者、最負する者、等千左萬別である、だからウツカリすると真相を誤り易い、能々問ひたし、聞きたくし、諸種の方法によつて真相を誤らないやうに務めなければならぬ。然るに輕々しく道路の説を信じ人の命を奪ふやうな暴舉に出づる者のあるのは、實に慨すべきの甚しきと謂ふべきである。

童話 逃げた猿

矢野 泰助

茂の町の明神様の境内に猿が飼つてありました。始は、五六匹居りました

原稿募集

が、どうしたのか、だん／＼少くなつて、今では、たつた二匹しか居りません。人は、始のうち、珍しがつて、いつも大勢檻の前に立つては、果物や、菓子や煎餅などをくれたのですが、日のたつにつれて、そんな人も少くなり、今では、境内で遊んで居る子守や、學校の行き歸りに、小學生が立ちよるぐらゐるものではない。

お宮の人も、あまりかまつてくれないと見えて、猿はお腹の空いてゐることが多いのでせう。人さへ見れば、二匹ともすぐ近づいてきて、物ほしさうな顔をしてます。しかし、子守や、學校の子供達は物をくれるやうに見せかけて、石などを投げ與へたりしました。そして、猿が怒つて、白い歯をむき出して、檻の金網をゆすぶると、子供らは面白がつて、棒をさしこんで、猿を一層怒らせるのでした。

（院 病 濟 共） 始開療診費輕

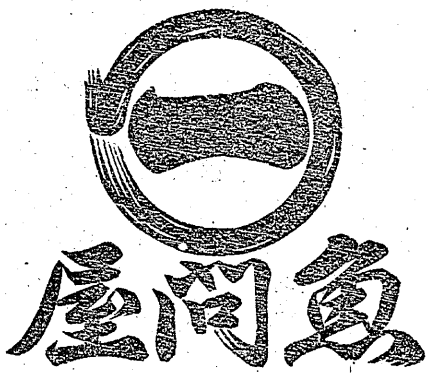
郡内卅四ヶ町の囑託により六月一日より輕費診療を開始

- ◎診療科目 内科 小兒科 外科 性病科 皮膚科 産婦人科 物理療科 耳鼻咽喉科 X光線科
- ◎診察料 輕費診察員 五十錢 共濟診察員 無料
- ◎薬價 一日分共濟診察員 十五錢 共濟診察員 無料
- ◎入院料 一日輕費診療 一圓以上 共濟會員
- ◎院長 醫學博士 石山 謙 郎
- ◎本院 主管 賀澤 忠 治
- ◎衛生試験 醫化學的検査は何でも致しませう遠慮なく御利用下さい
- ◎公休日 日曜 祭日 御座りません
- ◎尚御不明ノ點ハ各町村長又ハ本院ニテ御遠慮ナク御聽キ下さい

城 共 濟 會
電話六四一番

■ 産名城磐 ■

らか鹽 と 節鯉



店理代平命生本日大最優最
榮 盛 賀 志
番三一二電 目丁四平

冬も暖かく

- 裏毛メリヤス 三五錢
- 毛 メリヤス 一二〇錢
- 婦人みやこ 六八錢
- 婦人毛シャツ 九五錢
- モリタヤ洋品店
- 買ひ良き店 5丁目電353

◎山は富士、保険は三井

寄らば大木の基

- 貯蓄と保険を兼ねた最も有利な保険
- 保険は文化の生存競争の基礎
- 保険加入すれば明日より明るい道を照らす
- 保険は一家團圓の基礎
- 保険は老へ行く先の御樂みに
- 老へて泣くも笑ふもよだんの心掛け一つ
- 保険加入の有無は自己信用の尺度
- 皆さん今日と言はず明日と言はず善は急げの諺あり奮つて御加入の程をお勧め致します

三井生命代理店主幹 佐藤 永春
 専囑社員 福島 寛利
 平町紺屋町二



玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

貸切の●●●

御用命は？

獅子吼(四四九)ノ勢デ
 マツサキ
 眞先ニ……………(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

吉田眼科病院
 平紺屋町、電話六八番

月曜言論
週間の中毒

昨今の流行もの、一つに『何々週刊』なるものがある。其の鼓吹せんとする處も、より是なるも、被鼓吹者の立場に在る者から云ひば、年中つき纏ふ債鬼と同様に『何々週刊』なるお題目に追ひ立てられ、狩り立てられる感がある、注意の涵起や氣分の更新は、稀れに衝動を受けてこそ効果がある、週間に次々に週刊を以つてする様な、何々デーづくめは『又か』の感を以つて送迎され、たゞ人々をうんざりせしむるのみにとゞまる、これでは折角の催しも一種の徒勞に終る、お役人の側では國民の智徳兼備を目標としていろ／＼な週刊を製造するのであらう、即ち週刊製造がお仕事であつて見れば週刊の連發はお役人の勤勉さを物語るのであつて、誠に喜ぶべきであるが生産が過剰になれば其の價値は失墜する、殊に衛生デーと健康デー、乳幼児愛護デーと小兒養育デーといった工合に製造元のお役所が變るだけで類似品が續々宣傳されるに及んでは、顧客側に於ても其の應接に尠なからず面喰はされる、甚だ以つて近頃迷惑千萬な次第ではあるまいか

支那騎兵隊との衝突に
湯本出身兵戦死す

騎兵上等兵佐川泰男君

出生地は小名濱町

十四日拂曉支那騎兵三百の來襲を受けた我が嫩江枝隊の右方にある我が騎兵隊は之を撃退し續いて同地東北の方高地に進出した後更に五六百名の支那騎兵の攻撃によつて大激戦となつたがこの騎兵戦に於いて我が軍は遂に一名の戦死者を出したがこの戦死者は小名濱町中

健氣な母親

泰男君の死を嘆かず

留守宅は娘の細い腕で

さびしい二人暮らし

別項名譽の戦死者佐川泰男君の一家を湯本町に訪ねるに母親シナさんと妹トヨさんの淋しい二人暮らしで泰男君が出征して後の留守中はトヨさんが品川白煉瓦

工場に 女工として働

き細い腕で母親を養つて居たのである。シナさんは五十からみの世帯帯せした頬に微笑を浮かべ「但今も役場の方から俸れの戦死した報知を受けた處です

お國の 爲めに一命を

献げた事でありませうから私共は決して泰男の死を嘆く様な氣持ちはありません

仕打ちと思ひますか

ら充分に懲らしめ度ふ御座います」と健氣にも近所の見舞客に挨拶を述べて居た

「營養週間

平町の施行項目
昨十五日から廿一日まで一週間施行せらるゝ兒童營養週間に關し伏見平町長は左の通知を町内へ發した

米査定會へ出席

明十七日縣農會議事堂に開催される本年度米の標準米決定する査定會へ出席の爲め、木名瀬穀物検査支所長郡農會橋本技手は昨十五日出發した

平女靑主催 編物講習

平女子靑年團にては第二回編物講習會を開催する筈であるが場所は平第二校にて會費不要、文化器編、手編何れも隨意にて期日は左の四日間である

十一月廿二日(日)同廿八日(土)十二月五日(土)同十二日(土)

往來

△山崎與三郎氏 十五日午後二時五十八分四倉行
△白井博之氏 同日午後二時十五分小川郷行
△會我平第一校長 同九時十一分原町より歸平

求職兒童は 百五十名突破か

近く性能試験を行ふ

一昨日機械使用の研究會

平職業紹介所と兒童の就職に關し連絡をとりつゝある小學校より既に同紹介所に對し就職斡旋方の申込あり

平町人事

回出生

△月見町二三番多八百氏二女多喜子
△古鍛冶町二三 當時朝鮮鮮黃海道瑞興郡木回前新喜里 小島徳雄氏次男瑞明
△三丁目一 江原市郎(二六)安達郡嶽下村大字高越字東町十三片寄ナカ(二二)



専門 内科一般

住宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子

磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は 釜屋の生業なり

平町新川端(釜屋新宅向)

内科 醫學博士 難波 睦
一般 電話五〇二番

平署の便所を破り 強盗犯草野逃走す

直に非常召集で搜索 行商女を襲つた犯人

去月廿三日石城郡赤井村文平原で野菜行商から現金を強奪した外好問小學校より洋服現金を窃取郡内各地で十六件の犯罪を重ね本月八日好問村大館にて逮捕された内郷高坂生れ住所不定前科二犯草野儀一(三)は其後連日平署に取調を受けて居

今朝五時 草野逮捕さる

下小川と赤井の村境で 悪運遂に盡く

今朝五時頃石城郡下小川村と赤井村の村境地内を徘徊する一名の青年を密行中の平署員が取押へた處同人は搜索中の逃走犯人草野儀一と判明したが草野は平署の便所を抜出すと新川の暗闇を一散に走り長橋町性源寺墓地より公園に出て山地、田畑を夢中で逃走し縣道村道は人眼を避ける爲め通らず山嶺田畑等を一気に小川村附近逃走したが空腹に耐えられず人家附近に出たのが遂に悪運盡きて逮捕されたものであると

平和麻雀惜敗 平町
平和クラブにては昨日午後

中根選手優勝

昨日十日福島市武徳殿に行はれた大日本武徳會福島支部の柔剣道大會に平署管内より選出された各選手は善戦した結果中根選手は善戦して第三位柔道の中根選手(小名濱)は個人試合に於いて優勝し内務大臣メダルを得た

委員會

豫算五百圓

平町役場では過般來平第三小學校の御眞影奉安庫設置に關し元郡役所跡の奉安庫を縣より譲渡すべく申請したが費用の點が折合せず其儘になつて居たが今十六日町役場會議室に學務委員並に土木委員の聯合委員會を召集奉安庫設置に就いて協議したが五百圓の豫算を以て新築する事になつた

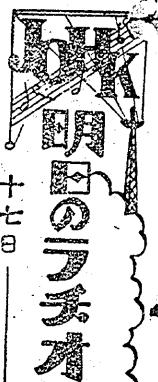
カナリヤ出品者

既報磐城カナリヤ研究會の陳列會は十五日午前九時より四丁目丸友樓上に行はれたが過般茨城縣笠間町の關

女の氣轉に 見事なされた男

舊惡まで暴露されて 鹿島村生れの男慘々

石城郡鹿島村生れ新妻房儀(三)といふ男、仙臺市茂市ヶ坂の一タクシー商會に雇はれ修繕職工となつて働いてあるうち同市奥田旅館の主人奥田傳兵衛を欺いて金三十圓をチヨロマカシ東八番町の某料理店酌婦花子(三)に入れあげてせつせと通ひ つめてゐたもの



明日の明日

今晩は北西の風、曇り時々雨、明日は北西の風晴れた、曇り時々驟雨模様

今晩の部

- 後六、〇〇 お話「影繪芝居」關猛
- 後六、三〇 英語講座 村岡博
- 後七、三〇 産業ニュース
- 後八、〇〇 時事講座「國際聯盟と組織と権能」山川端夫二、日支問題と

明日の部

- 前九、一〇 料理献立

氣轉

を利かして房儀のいふまゝになり「逃げるにても主人に知られては大變だから、ネ、ズン自動車ドライブしませう」と議一決し同市土樋附近でタクシーを拾ひ戀に酔ひ酒に酔つてへれけけになつた房儀と相乗りしサアそれから行く先は仙臺署、花子がそつと運轉手君へ耳打ちしたので自動車同署の前へ停ると同時に花子は轉げむやうに斯くと訴へ出たので房儀は目下同署で取調べを受けてゐる

満洲事變映畫

新報と讀賣新聞專賣所たる磐城通信社主催にて今明兩夜平館に滿蒙事情及び滿洲事變の映畫會を開催する筈であるが會費十錢であると

平職業紹介所便り

- 求人部
酒屋配達 十七才乃至廿才、住込月十圓位外歩合(平町)
- 女中 卅才以上、住込十圓以上、特に身元確實な者(平町某商店)
- 女中 廿才以下、住込月三圓位(好問村文具店)
- 求職の部
難夫廿一才、佐賢卒、面談(内郷村)

コンパルの改築

3階には西洋間が出来ました。2階は宴会のホールになりました。1階の食堂は廣く洋食會社

電話六六六番

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

- 前一〇、三〇 家庭講座「盆栽の冬の手当」(一)平松諒三
- 後〇、〇五 ドラマ「女給」下山竹の子他
- 後六、〇〇 ハーモニカ合奏「描寫曲」他 仙臺H.S.木常雄
- 後七、三〇 講演「學術上より觀たる阿蘇松本唯一」後八、〇〇 放談歌劇「コルネツイルの鐘」放送指揮伊庭孝
- 九、〇〇 コメディ「ベビィゴルフ」小堀誠他

小説 大塚

(八十六)

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

【載轉禁】

意氣地 (11)

その黒い影は最後に二階の窓から降りて来た歌治だった。彼の女の足は絹の様に柔かな華奢なものだったけれども体の重力と速力が加はつて可なり打撃を婆さんのふくれ顔に與へたのであった。

その前に源之助は降りる事は降りたけれども、二三間駆け出したばかりでばかり優つた儘体を立て直す事どうする事も出来なかつた。

そこへ歌治が走り寄つて来て起しがつた。「あなた、しつかりしなくつちや駄目よ、さ、私の肩につかまつて下さい、早く早くッ。」

男の腰を後から押へてぐんぐん押出す様にした。源之助はヒョロ／＼歩き出した。途端に窓の方で婆さんの誰れかを呼ぶ金切聲が聞えた。

「大變！大變！泥坊が逃げ出したよう、皆起きて下さい、早くッ」それが落雷の様な恐ろしい響きとなつて二人の耳を打つた。花園を廻ぐつて七八間も歩き出したと思ふ時

にズドンと云ふ銃聲が背後に起つた。婆さんが警報を傳へる爲めに打つた短銃の響であつた。二人は無中になつて駆けつた。浴室の裏手から先刻立つた料理場の横へ出る迄はどうか道が分つたがそれか



まご／＼何をして居るので、早くこつちえ入らつしやい」それは例の儀助であつた。彼は源之助を抱き上げる様にして裏門へ誘つた。「こゝから右へ横町を抜けると電車道の十二天停留所へ出られるが、もしも後を付けられると一本道で險をすすから、左へ入つて谷戸坂へ出た方がよすがす、谷戸坂をどこまでも北へ北へとひとりだに谷戸橋へ出られます。それから居留地を突きつて櫻木町へ出なさい、その方が安全で近かう

歌治は男の手を引いて左の暗い横丁に入った。その傍は所々に火が付いて居るだけの寂しい屋敷で長い板塀や生垣が廻つて居る別荘の寺だのがあり往來する人などは更になかつた。七八町も歩く中に何度も何度も立ち上つたりシヤガンだりして息をつかなければならぬ程に源之助はひどく疲れ弱りきつて居た。歌治も弱つて居るが気が立つて居るので自分の事は全るで無中であつた。たゞ源之助ばかり思つて、

「済まないなア、歌、實際お、俺はお前に對して申し譯けがない、眞に合せる顔がない、済まなかつたが勘忍して呉れ、俺の心には魔がさして居たのだ。今初めて目が覺めた免してくれ」源之助は促しい息の下から言つた。もう彼の目に涙が滲んでゐた。

「先はどこに裏門があるのか全く盲であつた。同じ所に行つたり来たたりまご／＼して居る中に別館の方から物騒しい人聲が聞えて来た。と暗い物陰から不意に飛び出した人があつた。歌治はどざりとした。

「もし、もし、こんな處に

「有難うございます。ほんとうに貴郎には……必つとお近い中に……充分なお禮を致します……左様なら」

大塚の 學生靴!!!
耐久新製品
編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……

大塚支店製靴部
電話七七番

御用命印刷物の總代理
常警日印刷株式會社
電話三六〇番

市原醫院
平町田町
電話一四四番

サロンの黒ビール
レストラン サロン
電話三五二

平新川町十九
木村病院
電話一六四番
産婦人科 院長 木村寅次郎
内臓外科 醫學士 松永憲一
整形外科

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

内科・小兒科・花柳病科
藤沼醫院
入院需應
平町紺屋町
電話五〇七番

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

井の切手商品
平三電 三八番

時計眼鏡
トキワヤ
平一・電三三九